

## 朝礼 校長講話（11月5日）

昨日、テレビでフィギュアスケートを観ていました。羽生選手が今季最高得点で優勝したということをスポーツニュースで知っている人もいることと思います。その演技はすばらしいものでしたが、先生が心に残った場面は表彰式でした。優勝した羽生選手は当然、表彰台の一番高いところで金メダルをかけてもらいました。そしてその後、国歌が流れ、センターポールに日の丸が揚がるんですが、その時、羽生選手は「君が代」を口ずさんでいたんです。私は羽生選手のすべてを知っているわけではありません。世代も違うし経験したスポーツも違います。皆さんと同じようにテレビやインターネットのニュースで彼を知っている程度です。しかし、その彼が国家を歌っているのを観て、「すごい人だなあ」と感じ、彼に対する評価がうんと高くなりました。別にこれは国歌だからすごいとかそういう話ではなく、その瞬間、瞬間を精一杯取り組んでいる姿を垣間見ることで、全体を知っていなくても人への評価が変わっていくということの一つの例です。

先月、学校訪問がありました。市や県の教育委員会や多くの方々が弥富中学校にみえ、皆さんの授業の様子を、各クラス5分ほどの短い時間でしたが見ていかれました。そしてお帰りになる時にひと言ずつ感想をいただいたのですが、どの方も「とても落ち着いて学習に取り組んでいて、すばらしいですね」というおほめの言葉をいただきました。とあわせて、「意見を発表する時の声が小さいですね」とも言われました。たまたま観た授業で発表していた子の声が小さくて聞き取りにくかったことを受けての感想だと思いますが、先生は普段の皆さんの授業を見ていて、大きな声で発表できることも知っていますから、「そうでもないがなあ」と思って聞いていました。

でも、それが人の見方なのです。土曜日に3年生の先生から電話がありました。どんな内容だったかというと、日の出公園で遊んでいた子たちがわざとではないのですが、けたボールがフェンスを越えて公園の隣の家に飛んでいき、そこに止めてあった自転車に当たったそうです。わざとではないにしても、ボールが人のものに当たったことはよいことではありません。その子たちはその家の方にきつく叱られたそうです。でも、偉かったのは、ちゃんとその家に謝りにいって反省した態度を示したということです。以前、道いっぱい広がって走っている中学生を注意したら、無視されたり暴言を吐かれたりしたというお叱りの電話を受けたことがあります。ほんの一瞬の態度や言葉づかいで、その子はもちろん、その学年の子たちみんなの評価、学校全体の評価が大きく変わってしまいます。

今、インターネットを中心に、いろいろなやり取りの一部分を切り取って炎上することがよくあります。その言葉を言ったことが事実かどうかと言われれば、それは事実です。しかし、その言葉を発するにはその前後のやり取りがあつてのことで、当事者としては言い分もあると思いますが、世間の人にはそうは思ってくれません。皆さんはさまざまな場面で、多くの人に注目をあびています。目の前にいる人に見られていると同時に、後姿も誰かが見ているのです。2年生は今週、広島へ出かけます。そこで弥富中学校としての行動が求められます。それが来年の2年生に影響を及ぼすわけですし、今の3年生が去年しっかり学習してきたからこそ、今年があります。そんな意識をもって臨んでほしいと思います。

フィギュアスケートを観て、そんなことを思いました。